

地域連携システム計画

都道府県名	茨城県	市町村名	八千代町	地区名	下結城
事業主体	八千代町農業農村活性化推進機構				

1 地区の概要

本町は、関東平野のほぼ中央、茨城県の南西に位置し、首都東京へ60km、県都水戸市へ70kmの距離にあり、人口約2万5千人の農村地域である。地勢は概ね平坦で、土地のほとんどが田畑だが、一部平地林が残っている。農業を基幹産業としており、野菜を中心に稲作、果樹、畜産など多様な農業を展開し、首都圏の主要な食料供給基地となっている。特に白菜は日本一の生産量を誇り、メロン、梨については県の銘柄産地の指定を受けている。しかし、担い手の減少及び高齢化、農畜産物の輸入増加に伴う価格低迷も重なり、町の農業粗生産額及び生産農業所得は年々減少傾向にある。

下結城地区については、平地林を活用しそのなかに総合交流ターミナル(名称:憩遊館)や農産物加工施設、キャンプ場、体験農園、温泉などが整備された、本町の都市農村交流拠点施設である農村公園「八千代グリーンビレッジ」が所在する地区であり、近隣には町民公園や勤労者体育センターが整備された、人々の交流、健康づくりに力を注いでいる緑あふれる地区である。

2 グリーン・ツーリズムの現状と課題

(1) 現状

本町のグリーン・ツーリズムの推進拠点として整備を行った「八千代グリーンビレッジ」は、平成4年度より平成9年度にかけて農業農村活性化(緑の農村空間型)農業構造改善事業(総事業費約5億3千万)、地域農業基盤確立(農村資源活用)農業構造改善事業(総事業費約6億円)と、2つの事業により整備された。八千代グリーンビレッジには、総合交流ターミナル施設(名称:憩遊館)、白菜キムチや田舎みそ、小麦まんじゅうなどの加工体験ができる農産物加工施設、サツマイモやトウモロコシなど季節に応じた農作物の収穫体験を行う体験農園や市民農園、その他パーベキュー広場やコテージなどが整備され、都市住民との交流を図っている。また、憩遊館においては町単独事業で天然温泉を引き込み、平成13年度には露天風呂を、平成14年度には施設内に常陸秋そばを使い地元の名人が打った手打ちそばを提供する「そば処」と、施設隣に多目的研修室の増設を行い、交流人口の増加に努めている。

また、ソフト面では八千代グリーンビレッジや町民公園において桜まつりや菊まつりなど、季節に応じた催し物を開催し、また、県内・県外のイベントへ参加することで、特産品、野菜等の販売を通して八千代町農業のPRを図っている。

そのほか、メロン狩りや梨狩り、田植えや稲刈りによる米づくり体験など、各種農業体験ツアーを開催し、自然と親しみ、土のぬくもりを感じられる交流事業を展開し、農業・農村の理解促進を図っている。

(2) 課題

当町では、恵まれた農的環境を都市住民に提供する、やすらぎのある農村空間として平地林を活用した交流拠点「八千代グリーンビレッジ」を整備し、グリーン・ツーリズムを推進してきた。しかし、短期的な交流が主であり、周年的な長期交流活動には至っていない。

また、地元では減農薬や低化学肥料の展開など環境保全型農業への取り組みが着実に進められており、地域特性を踏まえた新しい農業が芽吹き始めているものの、担い手の減少や高齢化、輸入農産物の増加も重なり、町の農業産出額及び生産農業所得については年々減少傾向にある。

(3) 地区内の交流施設

施設名	施設規模	施設機能	管理運営主体	利用者数	売上額	雇用者数
総合交流ターミナル施設（憩遊館）	1棟 1,431 m ²	直売・農家レストラン・体験・休憩	(財)八千代町ふるさと公社	94,989人	126,872千円	13人
農産物処理加工施設	1棟 227 m ²	体験	"	2,167人	562千円	1人

(4) 農村休暇法に基づく市町村計画策定状況及び農林漁業体験民宿の登録状況

市町村計画：平成12年3月28日策定済み

農林漁業体験民宿登録状況：なし

3 地域連携システム推進体制

推進主体名	八千代町農業農村活性化推進機構	設立年月日	平成3年10月11日
構成員名	八千代町長、町議会議長及び経済委員長、農業委員会会長、農協代表者、土地改良区代表者、各地区地区長、各生産部会代表者、八千代町認定農業者の会代表者、農業経営士、商工会会長、消費友の会会長、教育委員長		

施設管理者である(財)八千代町ふるさと公社については、町長がふるさと公社理事長を兼務しており、また、推進機構の下部組織である推進指導班には公社の事務局長が班員として活動している。

4 地域連携システム計画

(1) 地域連携システム全体計画

地域農家とガルテナーで田舎の親戚のような関係を結ぶことで日常的な交流を推進し、また、都市農村交流の拠点として整備を行った八千代グリーンビレッジ内の各施設及びクラインガルテン八千代を有効に活用し、八千代町らしさを盛り込んだイベントを実施することでガルテナーと地域住民との間で人と人とのつながりによる顔の見える交流活動を展開し、地域及び地域農業の活性化を図っていく。

(2) テーマ別計画

地域資源の発掘・再評価

神社仏閣、公園、体育館などの公共施設地域、平地林など地域内の資源について有効利用に努める。

地域内の農林業との連携・調和

収穫体験や落葉利用による土作りなど、地域住民も含めた体験活動を展開すると共に、ガルテナー1組に対し地元農家を1戸、「田舎の親戚」のような関係を結び、農作業の指導やガルテナーが来られない間の農園管理などを行いながら交流を育むことにより、地域農業の理解促進やPR、都市部のニーズの把握に努め、更には直売や軒先販売等による地域農業の活性化を図る。

体験交流施設等の整備・連携方向

すでに整備されている八千代グリーンビレッジ内の施設について、憩遊館の入館料減額や加工施設における各種体験の参加料減額など、ガルテナーに対する特典を実施し既存施設の活用を図る。また、町民公園や勤労者体育センター、歴史民族資料館などの町内施設との連携を図り、ガルテナーの利用促進に努める。

地域内の飲食業、小売業、地場産業の連携・役割分担

都市住民との交流により地域内への入込み客数の増加を図ることにより、地域のまつりなどを活用しながら地場産業のPR及び活性化を図る。

地域資源の特性を活かした交流産業の高度化

収穫体験だけではなく難しさ、厳しさを含めた本当の農業を知ってもらう農作業体験、本物の味を楽しんでもらう地元の食材を使用した加工体験、平地林の落ち葉を利用した土作り体験など、地域で実施できる農業体験について地域住民を講師や一参加者として交えたイベントとして、既存の施設を活用しながら実施していく。

情報発信機能の強化

クラインガルテンの整備に伴いホームページを作成し、インターネットを活用して情報発信機能の強化を図る。

交流空間の整備

八千代グリーンビレッジやクラインガルテン八千代を都市農村交流の拠点として活用しながら、田舎の親戚などの日常的な交流や農業祭、各種体験などのイベントを実施することにより、交流空間の強化を図っていく。

(3) 地域連携システム全体計画図

別紙のとおり

5 目標

(1) グリーン・ツーリズム入込み客数

現状(H15年)	1年目	2年目	目標(H18年)	増加率(%)
1043人	5636人	5636人	5636人	540.3

(2) グリーン・ツーリズム入込み客数の定義及び把握手法

クラインガルテンの貸し出し状況による利用延日数の推計及び体験農園の利用者数

(3) その他

耕作放棄地の解消

選択項目	現状(H15年)	1年目	2年目	目標(H18年)	減少率(%)
耕作放棄地の解消	6.6ha	6.1ha	5.9ha	5.9ha	89.3